

## 2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	津波建築システム小委員会	主 査 名：藤田謙一 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	海洋建築委員会	委員長名：遠藤龍司
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	東日本大震災後に海洋建築委員会が提案した津波フローティングシェルターなど、津波に対する建築物のシステムについて、調査・研究を行う。 初年度：津波避難システムの事例調査，および津波非難建築物のイメージ構築 2 年度：浮上システムの調査 3 年度：日常時と非日常時（津波遡上時）の両方に必要な機能および性能の調査 4 年度：調査・研究成果の公表	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 主査：藤田謙一（千代田化工建設）、幹事：矢代晴実（防衛大学校）、委員：遠藤龍司（職業能力開発総合大学校）、近藤典夫（日本大学）、桜井慎一（日本大学）、関洋之（梓設計）、濱本卓司（東京都市大学）、増田光一（日本大学）、松井徹哉（名古屋産業科学研究所）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kaiyo/s0/index.htm">http://news-sv.aij.or.jp/kaiyo/s0/index.htm</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	海洋建築部門研究協議会「事例を通して海洋建築の計画・設計の特徴を考える」 参加者数 約 26 名 (資料名) 同上
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	日本建築学会「建築の未来への貢献—これから 10 年のビジョンと中長期計画— (案)」へのパブリックコメント（海洋建築本委員会と共同で検討）
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 津波避難建築の調査対象の分類および調査項目の選定。 2. 津波避難建築，津波防災施設の事例調査。 3. 2016 年度研究協議会を海洋建築本委員会と共同で企画した。
委員会活動の問題点 ・課題	特になし

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。